

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------------|------------------|-------------|
| 事業所番号 | 4071200622 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 怡土福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 怡土 | | |
| 所在地 | 〒819-0375 福岡県福岡市西区大字徳永1065-1 | Tel 092-807-7576 | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月07日 | 評価結果確定日 | 平成28年11月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|------------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 | Tel 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 平成28年11月08日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の自主性を活かし、それぞれが食事作り、清掃、洗濯などをスタッフと共に和気あいあいと行い、レクリエーション、趣味活動等個々の能力に応じ参加出来るようにしている。また、自然環境にも恵まれており散歩、外出をし四季折々に触れることができる。敬老会等各種行事に家族も参加していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

九州大学の総合移転に伴う再開発が進む、自然と交通の便に恵まれた環境の中に、開設16年目を迎える「グループホーム 怡土」がある。関連法人である協力医療機関と看護職員、介護職員の連携により、安心の医療体制が整っている。1週間毎に職員が献立を考え、旬の食材を採り入れ、利用者の好みを聞いて手作りの美味しい食事を提供し、利用者職員と一緒に食べる家庭的な雰囲気を大切にしている。年1回の家族会を始め、バーベキュー大会、敬老会、忘年会等の行事に大勢の家族の参加があり、コミュニケーションを図り、意見、要望が出しやすい風通しの良い関係を築いている。毎朝行う、ホール、居室の清掃や洗濯物たたみ、食事作りの下拵え等、利用者一人ひとりが役割を持って生き生きと暮らす姿を見た家族からは、大きな信頼と感謝の気持ちが寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念に『地域の一員として』と言葉を入れ、毎朝レク時に声に出し、皆と共有している。 | グループホームが目指す介護理念を、毎朝のレクリエーションの最後に、利用者と職員と一緒に唱和している。職員は、理念の意義を理解し、利用者一人ひとりを尊重し、地域の一員として、楽しい暮らしが出来るよう支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 中学生の職場体験や夏祭り等へ参加し、スタッフ・利用者ともに交流を図っている。 | 町内会に加入し、地域の夏祭りに利用者と職員が参加し、ホームの行事や利用者の作品展示会に、地域の方やボランティア、家族が参加して、相互交流が行われている。また、中学生の職場体験の受け入れを行い、交流の輪が広がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、自治会の方と意見交換し地域へ発信して頂いている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月に開催し、民生委員・包括支援センターの方等と意見交換し運営に生かしている。 | 運営推進会議は、家族会から2名、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、年6回開催している。ホームの現状や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報等を提供して貰い、充実した会議になっている。出された案件や勘案事項は検討し、ホーム運営に反映出来るように努力している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 来設時に情報交換を行っている。来設が無い時は文書を郵送し、実施報告している。 | 管理者は行政窓口にて、疑問点や困難事例を相談し、事故等の報告を行い、情報交換し連携を図っている。また、運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解して貰い、協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。毎年、外部研修へ参加し、他スタッフへ伝達を行っている。 | 身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束について研修を行い、職員一人ひとりが理解を深めている。禁止行為の具体的な事例を検証し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束について話し合い、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修へ参加し、虐待の事例等を参考にし、防止・対策に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在利用されている方はいないが、資料を閲覧出来るよう準備している。その都度制度を理解して頂けるよう家族へ説明等を行っている。 | 権利擁護の制度に関する外部研修を受講した職員が、内部での伝達研修を行い、制度についての理解を深め、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットや資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容について説明し、関係機関に橋渡し出来る体制が整っている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書に基づき、本人・家族と立ち合いの上で説明を行い、理解される様、十分時間を設けている。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置し、すべての方が利用出来るようにしている。 総会時には、ほぼ全ての家族に施設に対する意見を述べて頂いている。 | 家族の面会が多く、年1回の家族会、バーベキュー大会、敬老会、忘年会等、家族参加の行事を企画し、家族とコミュニケーションを取る中で、意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画に反映出来るよう取り組んでいる。また、運営推進会議に、家族会から2名の代表が参加し、意見交換を行っている。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月職員会議を行い、意見をまとめて管理者へ報告行っている。 | 毎月1回、18時から、ほぼ全員参加の下、職員会議を開催し、意見や要望を提案しやすい雰囲気の中で、活発な意見交換の場になっている。出された意見がホームの運営に反映出来るよう取り組んでいる。また、毎日の申し送り時に職員の気付きや心配な事を話し合い、解決に向けた取り組みを行っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月、勤務状況を確認し、職員と意見交換を行い、働きやすい環境を作っている。 外部研修への参加等で各自のスキルアップを図っている。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用にあたっては人柄、意欲等を考慮し採用している。定年再雇用制度導入、休暇の取得を促し、社会参加や自己実現の権利は保証されている。 | 管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所の配置を行い、職員が生き生きと働けるよう配慮している。また、職員の処遇改善に力を入れ、休暇の取得を促す等、働きやすい職場環境を整え、職員の定着に繋げている。職員の募集は、性別、資格の制限はなく、意欲や人柄を優先している。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 同和研修、人権学習に参加し、入居者・職員に関すること等幅広く学習している。 又、内部研修はスタッフへの伝達を行っている。 | 外部の人権研修に職員を交代で派遣し、内部で伝達研修を行っている。利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で話し合い、利用者が持っている価値観や生活習慣に配慮した介護の実践に繋げている。また、理念に「一人ひとりの尊重」と謳い、常に理念を意識した介護サービスに取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。またそれらの研修報告は、毎月の勉強会で発表してもらい、研修の報告書を全職員が閲覧できるようにしている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修等を通じ一緒に学んだり親睦を深めサービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスの利用について相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合っている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に本人や家族の思い、状況を確認し、早急な対応が必要な相談者には他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや声かけをしている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、本人希望時、家族に電話したり、家族との絆を大切に支えていけるよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力もあり、なじみの美容室に行ったり、墓参りされている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。 | 利用者の友人、知人の面会時には、ゆっくり寛げる場所やお茶を提供し、いつでも来ていただけるように声掛けしている。家族の協力で、馴染みの美容院や墓参り、外食等に出かけてもらい、利用者の馴染みの関係や地域社会との関わりが、ホーム入居によって途切れないように支援している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 清掃・野菜の切り込み・配膳の準備などそれぞれが得意な事で協力し合い声をかけながら円滑に行われているが、気分や感情の変化もあり注意して見守っている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院入院で出られる方が多く、入院後も経過を見守ったり、家族からの相談に乗っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、ご家族からも情報を得るようにしている。 | 職員は、日常生活の中から、利用者の思いや意向を把握し、職員間で共有し、思いが実現できるように取り組んでいる。また、意志を伝えることが難しい利用者については、家族と相談し、ベテラン職員と話し合う等、情報を得ながら利用者に寄り添い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人のバックグラウンドを知れば知るほどその人への理解につながっている。 昔の話をするとうれされる為、ご家族からも機会があれば聴くようにしている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 | 職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を聞き取り、カンファレンスやモニタリングの中で検討し、利用者中心の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、定期的に介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 気づいたことはすぐに記録できるよう個別記録にケアプランを配置し、それに基づき記入を行っている。 また、スタッフ間で情報交換し、見直しを行っている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族のその時々状況・要望に合わせ、対応している。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの方々と交流したり、近くのスーパーやコンビニまで買い物にいたりして楽しんでもらっている。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している | 本人・家族の希望により入所者の多くは連携病院にかかりつけ医がいるが、他病院にかかりつけ医がいる場合においても適切な医療を受けられるよう支援している。 | 定期受診については、家族対応でお願いし、密に連絡を取りながら、医療情報の共有に努めている。系列医療法人によって24時間安心できる医療体制が整い、ほとんどの利用者が、併設病院を主治医として選択し、看護師と介護職員の協力で早期に対応する事により、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している | 毎日バイタル測定行い、体調の変化など伝えている。病院受診や看護の判断をしてもらっている。また体調管理方法について助言を受けている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は利用者の状態を訪問や電話にて情報交換している。また相談も受けられている。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に『重度化に伴う対応について』を説明し、同意を得ている。終末ケアは現在行っていないが、出来る限り、ホームで生活していただけるよう努めている。 重度化した場合は病院・他施設と連絡を取り、支援している。 | ターミナルケアについては、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援と出来ない支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、密に家族と連絡を取りながら、主治医も交えて方針を確認し、関係者全員で方針を共有し、出来るだけホームでの生活が継続出来るよう取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心肺蘇生法の流れ、応急手当や初期対応の訓練を勉強会で行っている。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中及び夜間を想定し、避難・消防訓練を行っている。緊急連絡簿を作成しており地域の方との協力体制を築いている。 | 昼夜を想定した避難・消防訓練を、地域住民の参加を得て年2回実施し、避難場所に利用者全員が安全に避難誘導できる体制を整えている。また、非常災害時に備え、飲料水、非常食の準備にも取り組んでいる。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレ誘導や衣類交換の際、自尊心を傷つけない様、声かけしている。 | 利用者のプライバシーを守る介護について、日常的に職員間で話し合い、大事な話は利用者の居室で行う等、声の大きさや言葉遣いに注意し、利用者一人ひとりの個性を尊重した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務について、管理者が常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 買い物の希望があれば出かけられる時間を伝え、了解してもらい、出かけている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 掃除、食事作り、レクレーション・趣味活動において自由に参加できるよう、また外出など本人の希望に添えるよう支援している。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の着替え、入浴準備の時に一緒に選んだり、散髪は本人の希望に添い、カットしている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜切り、盛り付けをお願いし、準備したり、その人の好みを取り入れたりして食べやすいように工夫している。片付けも利用者がそれぞれ出来る役割があり、協力し合いながら一緒にしている。 | 利用者の嗜好や旬の食材を活かし、一週間分の献立を職員が立て、利用者が包丁を握って野菜の下拵えに参加する等、作って食べる喜びを感じてもらっている。職員が交代で作る美味しい手料理を、利用者と職員がテーブルを囲んで一緒に食べる家庭的な食事の時間は、利用者の元気の源になっている。また、誕生会のケーキ作りや簡単なおやつ作りも、利用者の楽しい時間である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | カロリー及び栄養に偏りがないよう献立を組み提供。咀嚼や嚥下、その日の体調に合わせ、量や形態にも配慮し対応している。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりに声かけ、出来る範囲で歯磨き、うがいをして頂き、必要に合わせ、仕上げ磨き等介助している。義歯の方で自己管理出来ない方は夜間預かり対応している。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。尿意の訴え少ない方にもトイレで排泄して頂けるよう実施している。 | トイレでの排泄やおムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がるとの思いから、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けし、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行なっている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維を多く取り入れた献立と適度な水分補給をすすめることにより便秘予防を行うとともに、下剤の服用の調整も行っている。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 原則、月・水・金の午後ではあるが、入浴順番、時間など可能な限り希望に合わせており、また、ゆっくり入浴して頂けるようにしている。拒否のある方は声かけを工夫したり、スタッフを交替して入浴して頂けるよう配慮している。 | 入浴は、週3回を基本としているが、出来るだけ、利用者の希望や体調に配慮した入浴の支援に取り組んでいる。拒否のある方に対しては、時間をずらしたり、清拭、足浴に変更して、柔軟に支援している。また、希望に沿って、同性介助を行い、利用者とのコミュニケーションを大切にされた入浴の支援に取り組んでいる。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中、レクリエーションや余暇活動にお誘いし、適度に体をうごかすよう、また覚醒を促すことで夜間良眠出来るよう支援している。夜間の不穏、不眠時は安心して入眠されるよう対応している。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬表にて薬の内容を把握し、服用時にはスタッフがダブルチェックすることにより飲み忘れや誤薬がないよう注意している。尚、症状に変化がある時は速やかに医療機関と連携し、調整している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の体調や気分を見極め、清掃、食事の準備、洗濯干しなどの日常のお手伝いをして頂いている。 塗り絵や計算、カラオケなどその方に合った楽しみごとの支援をしている。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員と買い物に出かけたり、天候が良い日は散歩、外食、ドライブに出かけている。家族の協力もあり、受診や外出もされている。 | 利用者の体調に配慮し、天気の良い日は散歩や買い物に出かけ、利用者の気分転換に取り組んでいる。外出レクリエーションを行い、外食や花見、買い物、ドライブに出かけたり、家族の協力を得て外出して貰い、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員が預り金として保管し、家族と使途や金額について相談し、合意を得た上で本人希望に沿った買い物の支援をしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により家族の方へ電話ができるよう支援している。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内には季節の花や絵などを装飾している。 トイレなど汚染時には清掃し、衛生管理を行うとともに適温・適湿に気をつけ、居心地よく過ごせるようにしている。 | 玄関には、季節の花や観葉植物を飾り、室内には、季節の装飾品や利用者と職員が作った作品を飾っている。天窓からの柔らかな陽射しと中庭からの採光により、明るくアットホームな雰囲気である。毎日、利用者と職員と一緒にホールの清掃を行い、清潔で気持ちの良い生活環境を整えている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子、ソファの配置でそれぞれ好きな場所で気の合う人と談笑したり、新聞を読まれ、一人になりたい時は居室で過ごされている。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談し、本人の使い慣れた家具や趣味の道具、なじみの物を持ち込んでもらい、個性も大切にしている。 | 利用者が長年使い慣れた家具や身の回りの品、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んで貰い、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して暮らせるよう支援している。また、利用者と職員と一緒に居室の清掃を行い、利用者が愛着を持って居心地良く過ごせるよう配慮している。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの場所がわかり易いように、入り口に大きめの字、色で表示している。 | | |